

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	ガッコウホクニシカシニョブナガケン 学校法人 東日本学園									
フリガナ大学の名称	ホッカイドウリョウガクダイガクダイ 北海道医療大学大学院									
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地									
大学の目的	北海道医療大学大学院は、建学の理念及び教育理念に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、高度な専門知識・技術の修得に加え、保健・医療・福祉分野の横断的な知識及び豊かな人間性を有した高度専門職業人の養成と最先端の研究活動を通じて、社会の発展、人類の幸福に寄与できる教育・研究者の養成を目的とする。									
新設研究科等の目的	人々の健康増進と保健医療の発展のために、臨床検査学の先進的な知識と技術を修得、実践し、かつ、応用力と自己成長ができる指導的役割を担う高度専門職業人を養成することを教育の目的とする。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医療技術学部 臨床検査学科 14条特例の実施
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻	年	人	年次人	人	修士（臨床検査学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和7年4月第1年次	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目	
	計	2	4	-	8	8				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和7年4月開設 医療技術科学研究科 臨床検査学専攻（博士後期課程）（2）（令和6年8月認可）									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		17科目	8科目	0科目	25科目					
新設分	研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
			教授	准教授	講師	助教	計			
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 (博士前期課程)	人	人	人	人	人	人	人		
	7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)			
	計	7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	- (-)		
既設分	薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)		14 (14)	13 (13)	11 (11)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	0 (0)	
	歯学研究科 歯学専攻 (博士課程)		25 (25)	7 (7)	9 (9)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	8 (8)	
	看護福祉学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)		12 (12)	7 (7)	5 (5)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	16 (16)	
	看護福祉学研究科 臨床福祉学専攻 (博士前期課程)		4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
	看護福祉学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
	看護福祉学研究科 臨床福祉学専攻 (博士後期課程)		3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	心理科学研究科 臨床心理学専攻 (博士前期課程)		5 (5)	3 (3)	4 (4)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	心理科学研究科 臨床心理学専攻 (博士後期課程)		3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 (博士前期課程)		18 (18)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	8 (8)	
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 (博士後期課程)		16 (16)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	1 (1)	
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
	計	115 (115)	37 (37)	54 (54)	5 (5)	211 (211)	0 (0)	- (-)		
合計		122 (123)	38 (38)	60 (60)	5 (5)	225 (225)	0 (0)	- (-)		

職 種		専 属	そ の 他	計					
事 務 職 員	59 (59)	48 (48)	107 (107)						
技 術 職 員	9 (9)	8 (8)	17 (17)						
図 書 館 職 員	1 (1)	14 (14)	15 (15)						
そ の 他 の 職 員	56 (56)	60 (60)	116 (116)						
指 導 補 助 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計	125 (125)	130 (130)	255 (255)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	北海道医療大学歯 学部附属歯科衛生 士専門学校と共用 収容定員：150人 基準面積なし			
	校 舎 敷 地	98,662.63㎡	1,650.00㎡	0㎡	100,312.63㎡				
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡				
	合 計	155,978.37㎡	1,650.00㎡	0㎡	157,628.37㎡				
校 舎	専 用	71,337.34㎡ (71,315.66㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	71,337.34㎡ (71,315.66㎡)				
	講義室	44室	71室	58室	16室	大学全体			
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 冊	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特 定不能なため大学 全体の数	
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻	244,628〔77,714〕 (235,225〔76,245〕)	942〔95〕 (942〔95〕)	11,554〔8,376〕 (10,943〔8,375〕)	8,805〔7,280〕 (8,917〔7,324〕)	77,511 (77,511)	2,185 (2,185)		
	計	244,628〔77,714〕 (235,225〔76,245〕)	942〔95〕 (942〔95〕)	11,554〔8,376〕 (10,943〔8,375〕)	8,805〔7,280〕 (8,917〔7,324〕)	77,511 (77,511)	2,185 (2,185)		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	研究科単位での 算出不能なため 学部との合計	
		教員1人当り研究費等	—	582千円	582千円	—千円	—千円		—千円
		共同研究費等	—	15,574千円	15,574千円	—千円	—千円		—千円
		図書購入費	4,876千円	4,876千円	4,876千円	—千円	—千円		—千円
	設備購入費	41,738千円	41,738千円	41,738千円	—千円	—千円	—千円	図書購入費には 電子ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト)を 含む。	
	学生1人当り 納付金	—	第1年次 1,000千円	第2年次 800千円	第3年次 —千円	第4年次 —千円	第5年次 —千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金・寄付金・資産運用・雑収入等							
大 学 等 の 名 称	北海道医療大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地	
薬学部 薬学科	年	人	年次 人	人		0.93 0.93	平成18年度	北海道石狩郡当別 町字金沢1757番地	
歯学部 歯学科	6	160	2年次 4 3年次 5	1,000	学士(薬学)	0.90 0.90	昭和53年度	同上	
看護福祉学部 看護学科	6	80	—	480	学士(歯学)	0.88 1.18	平成5年度	同上	
福祉マネジメント学科	4	100	—	400	学士(看護学)	0.51	平成14年度	同上	
心理科学部 臨床心理学科	4	80	3年次 5	330	学士(臨床福祉学)	0.88 0.88	平成14年度	同上	
リハビリテーション科学部 理学療法学科	4	75	—	300	学士(臨床心理学)	1.11 1.23	平成25年度	同上	
作業療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法学)	1.17	平成25年度	同上	
言語聴覚療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法学)	0.92	平成27年度	同上	
言語聴覚療法学科	4	60	—	240	学士 (言語聴覚療法学)				

大学等の状況	医療技術学部 臨床検査学科	4	60	—	240	学士(臨床検査学)	1.12	平成31年度	北海道札幌市北区 あいの里2条5丁目		
	薬学研究科 薬学専攻博士課程	4	3	—	12	博士(薬学)	0.83	平成24年度	北海道石狩郡当別 町字金沢1757番地		
	歯学研究科 歯学専攻博士課程	4	18	—	72	博士(歯学)	0.37	昭和63年度	同上		
	看護福祉学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2	15	—	30	修士(看護学)	1.03	平成9年度	同上		
	看護学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(看護学)	1.66	平成11年度	同上		
	臨床福祉学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士(臨床福祉学)	0.60	平成16年度	同上		
	臨床福祉学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(臨床福祉学)	0.16	平成16年度	同上		
	心理科学研究科 臨床心理学専攻 博士前期課程	2	20	—	40	修士(臨床心理学)	0.82	平成16年度	北海道札幌市北区 あいの里2条5丁目		
	臨床心理学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(臨床心理学)	0.66	平成16年度	同上		
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士 (リハビリテーション科学)	1.20	平成25年度	北海道石狩郡当別 町字金沢1757番地		
	リハビリテーション専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士 (リハビリテーション科学)	1.83	平成27年度	同上		
	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 修士課程	2	4	—	4	修士(臨床検査学)	0.75	令和5年度	北海道札幌市北区 あいの里2条5丁目	令和5年4月開設	
	<p>名称 先端研究推進センター 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、全学一体となって癌や生活習慣病、難病などの疾患を予防の観点から追求し、人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 令和2年4月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p>										
	<p>名称 予防医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 北海道医療大学病院に含む</p>										
	<p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p>										
	<p>名称 歯科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p>										
<p>名称 心の相談センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程および博士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.16㎡</p>											
<p>名称 地域包括ケアセンター 目的 地域包括ケアに係る教育・研究の場として機能するとともに、在宅医療・介護等を通じて地域社会に貢献することを目的とする 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条6丁目2番1号 設置年月 平成27年12月 規模等 土地：1,250.10㎡ 建物：437.50㎡</p>											
<p>名称 総合図書館及び総合図書館分館 目的 教育及び研究に必要な図書館資料を収集・管理し、本学職員並びに学生の利用に供すると共に、必要なすべての情報を提供するためのサービスシステムを確立することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地及び北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 昭和61年12月 規模等 土地：1,249.00㎡ 建物：4,866.96㎡</p>											
<p>名称 薬学部附属薬用植物園 目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和60年9月 規模等 総面積：2,900.00㎡ (内、温室341.46㎡)</p>											

附属施設の概要

<p>名称 北方系生態観察園 目的 日本薬局方に収載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成13年6月 規模等 総面積：153,060.00㎡</p>
<p>名称 北方系伝統薬物研究センター 目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成21年8月 規模等 土地：342.00㎡ 建物：552.60㎡</p>
<p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p>
<p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p>
<p>名称 全学教育推進センター 目的 全学教育プログラムを開発し、その実施ならびに教育改善を行い教育の発展に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成19年4月</p>
<p>名称 情報センター 目的 教育・研究及び大学の管理運営の効率化を図るために構築された学内LANの管理運用を行うとともに、本学における情報化を推進し、教育・研究の発展に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成10年6月</p>
<p>名称 保健センター 目的 学生及び職員の保健管理に関する業務を行うことを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成8年4月</p>
<p>名称 認定看護師研修センター 目的 臨床看護領域における高度の知識技能を持つ経験豊かな看護師を養成し、もって看護現場ならびに本学の臨床看護学教育の質的向上を図ることを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年4月</p>
<p>名称 薬剤師支援センター 目的 薬学部が有する諸機能と知的財産を広く社会に還元し、教育・研究等における医療現場との連携並びに薬剤師の生涯学習推進に寄与することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成22年10月</p>
<p>名称 国際交流推進センター 目的 海外の教育研究機関等との学術交流、学生交流その他の国際交流事業の推進を図ることににより、本学の国際化を推進することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成25年12月</p>
<p>名称 地域連携推進センター 目的 本学の持つ諸機能と知的財産を広く社会に還元し、社会に開かれた大学として地域社会へ貢献するとともに、本学における教育研究活動の活性化を図ることを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成26年4月</p>
<p>名称 茨戸教育研修センター 目的 学生・職員の教育・研修に資するとともに、福利厚生に寄与することを目的とする 所在地 北海道石狩市市振1246番地 設置年月 平成6年6月 規模等 土地：1,155.00㎡ 建物：418.33㎡</p>
<p>名称 アドミッションセンター 目的 入学選抜方法の改善及び入学選抜の円滑な実施に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成29年4月</p>
<p>名称 IR推進センター 目的 本学における教育、研究その他の諸活動に関する情報の効果的かつ効率的な収集、分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学運営の推進に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成30年4月</p>
<p>名称 外国人留学生サポートセンター 目的 外国人留学生に対する修学、生活に係る支援及び指導助言を通じて自立性の向上を図るとともに、円滑な修学を実現する教育環境の整備に資することを目的とする 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 令和6年4月</p>

学校法人東日本学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
北海道医療大学				北海道医療大学					
薬学部				薬学部					
		2年次				2年次			
薬学科 (6年制)	160	4	1,000	薬学科 (6年制)	160	4	1,000		
		3年次				3年次			
			5				5		
歯学部				歯学部					
歯学科	80	-	480	歯学科	80	-	480		
看護福祉学部				看護福祉学部					
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400		
福祉マネジメント学科	80	3年次	5	330	福祉マネジメント学科	80	3年次	5	330
心理科学部				心理科学部					
臨床心理学科	75	-	300	臨床心理学科	75	-	300		
リハビリテーション科学部				リハビリテーション科学部					
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320		
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160		
言語聴覚療法学科	60	-	240	言語聴覚療法学科	60	-	240		
医療技術学部				医療技術学部					
臨床検査学科	60	-	240	臨床検査学科	60	-	240		
		2年次				2年次			
計	735	4	3,470	計	735	4	3,470		
		3年次				3年次			
			10				10		
北海道医療大学大学院				北海道医療大学大学院					
薬学研究科				薬学研究科					
薬学専攻 (4年制D)	3	-	12	薬学専攻 (4年制D)	3	-	12		
歯学研究科				歯学研究科					
歯学専攻 (4年制D)	18	-	72	歯学専攻 (4年制D)	18	-	72		
看護福祉学研究科				看護福祉学研究科					
看護学専攻(M)	15	-	30	看護学専攻(M)	15	-	30		
看護学専攻(D)	2	-	6	看護学専攻(D)	2	-	6		
臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	臨床福祉学専攻(M)	5	-	10		
臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	臨床福祉学専攻(D)	2	-	6		
心理科学研究科				心理科学研究科					
臨床心理学専攻(M)	20	-	40	臨床心理学専攻(M)	20	-	40		
臨床心理学専攻(D)	2	-	6	臨床心理学専攻(D)	2	-	6		
リハビリテーション科学研究科				リハビリテーション科学研究科					
リハビリテーション科学専攻 (M)	5	-	10	リハビリテーション科学専攻 (M)	5	-	10		
リハビリテーション科学専攻 (D)	2	-	6	リハビリテーション科学専攻 (D)	2	-	6		
医療技術科学研究科				医療技術科学研究科					
臨床検査学専攻 (M)	4	-	8	臨床検査学専攻 (M)	4	-	8	課程変更(届出)	
臨床検査学専攻 (D)	2	-	6	臨床検査学専攻 (D)	2	-	6	課程変更(認可申請)	
計	78	-	206	計	80	-	212		
北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校				北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					
歯科衛生科 (3年制)	50	-	150	歯科衛生科 (3年制)	50	-	150		
計	50	-	150	計	50	-	150		

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 新終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 修士課程	修士(臨床検査学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 博士前期課程	14	7	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 博士前期課程	修士(臨床検査学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 修士課程	14	7
			計	14	7				計	14	7

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
令和5年4月	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 修士課程 設置	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置認可(研究科)
令和7年4月	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 博士課程 設置	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置認可(課程の変更)
令和7年4月	医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 博士前期課程 設置	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置届出(課程の変更)

教育課程等の概要

（医療技術科学研究科 臨床検査学専攻博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任教員以外の教員	
共通科目	自然科学特論	1・2後		2			○			1	1						オムニバス方式
	臨床検査管理学特論	1・2後		2			○			2		1					オムニバス方式
	臨床検査研究法特論Ⅰ	1前		2			○			1		2					オムニバス方式
	臨床検査研究法特論Ⅱ	1前		2			○			1		2					オムニバス方式
	保健医療データサイエンス特論	1・2後		2			○								1		
小計（5科目）	—			10	0	0	—			5	1	5	0	0	1		
応用特色科目	保健医療管理学特論	1・2後			2		○			1		1					オムニバス方式・共同
	医療病態学特論	1・2前			2		○			2							オムニバス方式
	医療予防医学特論	1・2前			2		○			1		1					オムニバス方式
	先端医科学特論	1・2前			2		○			1		1					共同
	医療英語特論	1・2後			2		○			1		1					共同
小計（5科目）	—			0	10	0	—			4	0	4	0	0	—		
専門科目	生体機能解析学特論	1前			2		○			1							
	生体機能解析学演習	1後			2			○		1							
	病態情報解析学特論	1前			2		○			1		1					オムニバス方式
	病態情報解析学演習	1後			2			○		1		1					共同
	血液病態解析学特論	1前			2		○			1		1					オムニバス方式
	血液病態解析学演習	1後			2			○		1		1					オムニバス方式
	免疫細胞生物学特論	1前			2		○			1							
	免疫細胞生物学演習	1後			2			○		1							
	感染生物学特論	1前			2		○			1		1					オムニバス方式
	感染生物学演習	1後			2			○		1		1					オムニバス方式
	遺伝子関連検査学特論	1前			2		○			1							
	遺伝子関連検査学演習	1後			2			○		1							
	分子細胞病理学特論	1前			2		○					2					オムニバス方式
	分子細胞病理学演習	1後			2			○				2					オムニバス方式
小計（14科目）	—			0	28	0	—			6	0	5	0	0	—		
研究指導	生体情報解析学研究	1～2通		12				○		6		6					
小計（1科目）	—			12	0	0	—			6	0	6	0	0	—		
合計（25科目）	—			22	38	0	—			7	1	6	0	0	1		
学位又は称号		修士（臨床検査学）						学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
必修科目である「共通科目」（必修10単位）のほか、「応用特色科目」から4単位以上、「専門科目」から4単位以上を履修し、「研究指導」の「生体情報解析学研究（必修12単位）」とあわせて30単位以上を修得すること。 ※「専門科目」については、7つの専門分野のうち、同じ専門分野である特論と演習を必ず含む4単位以上であること。									1学年の学期区分		2学期						
									1学期の授業期間		15週間						
									1時限の授業時間		80分						

教育課程等の概要																
(医療技術科学研究科 臨床検査学専攻修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任教員以外の教員
共通科目	自然科学特論	1・2後		2			○			1	1					オムニバス方式
	臨床検査管理学特論	1・2後		2			○			2		1				オムニバス方式
	臨床検査研究法特論Ⅰ	1前		2			○			1		2				オムニバス方式
	臨床検査研究法特論Ⅱ	1前		2			○			1		2				オムニバス方式
	保健医療データサイエンス特論	1・2後		2			○								1	
小計(5科目)		—		10	0	0	—			5	1	5	0	0	1	
応用特色科目	保健医療管理学特論	1・2後			2		○			1		1				オムニバス方式・共同
	医療病態学特論	1・2前			2		○			2						オムニバス方式
	医療予防医学特論	1・2前			2		○			1		1				オムニバス方式
	先端医科学特論	1・2前			2		○			1		1				共同
	医療英語特論	1・2後			2		○			1		1				共同
小計(5科目)		—		0	10	0	—			4	0	4	0	0	—	
専門科目	生体機能解析学特論	1前			2		○			1						オムニバス方式 共同 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式
	生体機能解析学演習	1後			2			○		1						
	病態情報解析学特論	1前			2		○			1		1				
	病態情報解析学演習	1後			2			○		1		1				
	血液病態解析学特論	1前			2		○			1		1				
	血液病態解析学演習	1後			2			○		1		1				
	免疫細胞生物学特論	1前			2		○			1						
	免疫細胞生物学演習	1後			2			○		1						
	感染生物学特論	1前			2		○			1		1				
	感染生物学演習	1後			2			○		1		1				
	遺伝子関連検査学特論	1前			2		○			1						
	遺伝子関連検査学演習	1後			2			○		1						
	分子細胞病理学特論	1前			2		○					2				
	分子細胞病理学演習	1後			2			○				2				
小計(14科目)		—		0	28	0	—			6	0	5	0	0	—	
研究指導	生体情報解析学研究	1～2通		12				○		6		6				
小計(1科目)		—		12	0	0	—			6	0	6	0	0	—	
合計(25科目)		—		22	38	0	—			7	1	6	0	0	1	
学位又は称号		修士(臨床検査学)					学位又は学科の分野					保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)				
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
必修科目である「共通科目」(必修10単位)のほか、「応用特色科目」から4単位以上、「専門科目」から4単位以上を履修し、「研究指導」の「生体情報解析学研究(必修12単位)」とあわせて30単位以上を修得すること。 ※「専門科目」については、7つの専門分野のうち、同じ専門分野である特論と演習を必ず含む4単位以上であること。										1学年の学期区分		2学期				
										1学期の授業期間		15週間				
										1時限の授業時間		80分				

基礎となる学部の教育課程の概要(R4.4～)

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																
(医療技術学部 臨床検査学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)
全学 教育 科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1前	○	1							1	1	4		6	オムニバス方式・共同
	文章指導(日本語の表現)	1後	○	1											2	共同
	人間と思想(哲学)	1後			2			○							1	
	人間と思想(科学技術社会と倫理)	1前			2			○							1	
	人間と思想(心理学)	1後			2			○							1	
	人間と文化(医療の人類学)	1前			2			○							1	
	人間と文化(医療社会史)	1前			2			○							1	
	人間と社会(医療の法学)	1後			2			○							1	
	人間と社会(医療の経済学)	1後			2			○							1	
	英語 I(オーラル・イングリッシュA)	1前	○	1					○						2	共同
	英語 I(オーラル・イングリッシュB)	1後	○	1					○						2	共同
	英語 II(英語 IIA)	2前	○	1					○				1			
	英語 II(英語 IIB)	3前	○	1					○				1			
	英語 III(医療英語基礎)	4前	○	1				○			7		5			オムニバス方式
	初修外国語(初級ドイツ語)	1前				1			○						1	
	初修外国語(中級ドイツ語)	1後				1			○						1	
	初修外国語(初級ロシア語)	1前				1			○						1	
	初修外国語(中級ロシア語)	1後				1			○						1	
	初修外国語(初級中国語)	1前				1			○						1	
	初修外国語(中級中国語)	1後				1			○						1	
	運動科学演習(運動科学演習)	1後	○	1					○						3	共同
	情報科学(情報科学)	1後	○	2				○							1	
	情報処理演習(医療情報処理演習)	1後	○	1					○						1	
	統計学(基礎統計学)	1前	○	1				○					1			
	統計学(医療疫学統計学)	4前	○	2				○					1		1	オムニバス方式
	物理学(物理学)	1前	○	2				○							1	
	化学(化学)	1前	○	2				○				1				
	生物学(生命科学)	1前	○	2				○							1	
	自然科学入門(基礎数学)	1前				1		○					1		1	
	自然科学入門(基礎化学)	1前				1		○				1				
	自然科学入門(基礎生物学)	1前				1		○			1					
	多職種連携(多職種連携入門)	1前	○	2				○			1		2	1	27	オムニバス方式・共同
	多職種連携(多職種連携地域包括ケア実践演習)	3前				2			○				1		21	オムニバス方式
	医療倫理(基礎医療倫理学)	1後	○	1				○							1	
小計(34科目)	—	—	—	23	22	3	—	—	—	7	1	7	1	0	67	
専門 基礎 科目	解剖学 I	1前	○	1				○			1					
	解剖学 II	1後	○	1				○			2					
	解剖学実習	2前	○	1					○		2		1		3	オムニバス方式・共同
	生理学 I	1前	○	1				○			1				1	オムニバス方式
	生理学 II	1後	○	1				○			1					
	生理学実習	2前	○	1					○		1		1			共同
	生化学 I	1前	○	1				○			1				1	オムニバス方式
	生化学 II	1後	○	1				○			1				1	オムニバス方式
	生化学実習	2前	○	1					○		1		1			共同
	医学概論	1前	○	1				○			1				4	オムニバス方式
	病理学	1後	○	1				○			1					
	薬理学	2後	○	2				○							1	
	栄養学	2後	○	2				○							2	オムニバス方式
	公衆衛生学	1後	○	1				○							1	
	公衆衛生学実習	2前	○	1					○		1		1			共同
関係法規	4前	○	1				○			2		1			オムニバス方式	
医療情報科学	4前	○	1				○					1				
医用工学概論	2前	○	1				○					1				
医用工学実習	2後	○	1					○				2			共同	
小計(19科目)				21	0	0	—	—	—	7	0	5	1	0	13	

	臨床病態学Ⅰ	2前	○	1			○			1					1	オムニバス方式
	臨床病態学Ⅱ	2後	○	1			○			1					1	
	臨床病態学Ⅲ	2後	○	1			○			2					2	オムニバス方式・共同(一部)
	臨床検査医学総論演習	4前	○	1				○		2					2	
	臨床血液学Ⅰ	1後	○	1			○			1					1	オムニバス方式
	臨床血液学Ⅱ	2前	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式・共同
	臨床血液学実習	2後	○	2					○	2	1				1	オムニバス方式
	臨床血液学演習	4前	○	1				○		1	1				1	オムニバス方式
	医療分子機能科学	4前			1			○		1					1	
	臨床病理検査学	2前	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	臨床細胞診断学	2後	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	臨床細胞病理学実習	3前	○	3					○	1	1				1	共同
	臨床細胞病理学演習	4前	○	1				○		1	1				1	オムニバス方式
	分子細胞病理学	4前			1				○	1					1	
		臨床化学Ⅰ	2前	○	1			○			1					1
臨床化学Ⅱ		2後	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
臨床化学実習		3前	○	2					○	1	1				1	共同
臨床化学演習		4前	○	1				○		1	1				1	オムニバス方式
先進医療検査学		4前			1			○		1					1	
臨床検査学総論Ⅰ		1後	○	1			○			1					1	
臨床検査学総論Ⅱ		2前	○	1			○			1					1	
臨床検査学総論実習		2後	○	1					○	1	1				1	オムニバス方式・共同
臨床検査学総論演習		4前	○	1				○		1					1	
核医学概論		2後	○	1			○			1					1	
遺伝子検査学		2前	○	1			○			1					1	
遺伝子検査学実習		2後	○	1					○	1	1				1	共同
遺伝子・染色体分析科学		4前			1				○	1					1	
		免疫検査学Ⅰ	2前	○	1			○			1					1
	免疫検査学Ⅱ	2後	○	1			○			1					1	
	免疫検査学実習	3前	○	2					○	2	1				1	オムニバス方式・共同
	免疫検査学演習	4前	○	1				○		2					2	共同
	輸血・移植学	3前	○	2			○			1	1				1	オムニバス方式
	輸血・移植学実習	3後	○	2					○	1	1				1	共同
	免疫細胞生物学	4前			1			○		1					1	
	微生物学	2前	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	臨床微生物学	2後	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	微生物検査学	3前	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	微生物学実習	3後	○	3					○	1	1				1	共同
	臨床微生物学演習	4前	○	1					○	1	1				1	オムニバス方式
	感染生物学	4前			1				○	1	1				1	
	寄生虫検査学演習	3前	○	1					○	1	1				1	オムニバス
	食品衛生学	4前			1			○		1					2	
	臨床生理学Ⅰ	2前	○	1			○			1					1	
	臨床生理学Ⅱ	2後	○	1			○			1	1				1	オムニバス方式
	臨床生理学実習	3前	○	3					○	1	1	1			2	オムニバス方式・共同
	画像検査学	3前	○	2			○				1	1			1	
	画像検査学演習	3後	○	2				○				1			1	共同
	臨床生理学演習	4前	○	1				○		1	1	1			1	オムニバス方式
	実践超音波検査学	4前			1			○				1			1	
	検査機器学	1後	○	1			○			2		4			2	オムニバス方式
	基礎機器分析演習	1後	○	1				○		1	1				2	オムニバス方式・共同
	臨床検査管理学Ⅰ	1前	○	2			○			4	6	1			2	オムニバス方式・共同(一部)
	臨床検査管理学Ⅱ	2前	○	2			○			2	3				2	オムニバス方式
	臨床検査管理学Ⅲ	3前	○	2			○			1					1	
	保健医療福祉演習	2前	○	1				○		3	3				6	オムニバス方式・共同
	チーム医療・コミュニケーション演習	3後			1			○		3	3				2	オムニバス方式・共同
	総合臨床検査学演習Ⅰ	2後	○	1				○		8	5	1			2	オムニバス方式
	総合臨床検査学演習Ⅱ	4前	○	1				○		3	3				2	オムニバス方式
	総合臨床検査学演習Ⅲ	4後	○	4				○		7	6	1			2	オムニバス方式
		医療安全管理学演習Ⅰ	2前	○	1			○			6	5	1			2
医療安全管理学演習Ⅱ		3後	○	1			○			2	1				2	オムニバス方式・共同
	臨地実習	3後	○	12					○	7	6	1			2	共同
	卒業研究	4通	○	6				○		7	6	1			2	共同
	健康食品学 ※1、※2	4後				1	○			1	1				3	オムニバス方式
	小計(64科目)	—	—	89	9	1	—			8	0	6	1	0	26	
	合計(117科目)	—	—	133	31	4	—			8	1	7	1	0	99	

学位又は称号		学士(臨床検査学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
全学教育科目29単位以上(うち必修23単位)、専門教育科目111単位以上(うち必修110単位)、合計140単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限:46単位(年間)) ※1 食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得するために履修が必要。 ※2 健康食品管理士の受験資格を取得するために履修が必要。			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業の標準時間	80分

基礎となる学部教育課程の概要 (R5.4～)

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																	
(医療技術学部 臨床検査学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置							
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任(助手を除く)教員	
全学教育科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1前	○	1				○		1	1	3			6	オムニバス方式・共同	
	文章指導(日本語の表現)	1後	○	1				○							2	共同	
	人間と思想(哲学)	1後			2			○							1		
	人間と思想(科学技術社会と倫理)	1前			2			○							1		
	人間と思想(心理学)	1後			2			○							1		
	人間と文化(医療の人類学)	1前			2			○							1		
	人間と社会(医療の法学)	1後			2			○							1		
	人間と社会(医療の経済学)	1後			2			○							1		
	英語 I (英語コミュニケーションA)	1前	○	1					○						2	共同	
	英語 I (英語コミュニケーションB)	1後	○	1					○						2	共同	
	英語 II (英語 II A)	2前	○	1					○			1					
	英語 II (英語 II B)	3前	○	1					○			1					
	英語 III (医療英語基礎)	4前	○	1				○			7		5			オムニバス方式	
	初修外国語(初級ドイツ語)	1前			1				○						1		
	初修外国語(中級ドイツ語)	1後			1				○						1		
	初修外国語(初級中国語)	1前			1				○						1		
	初修外国語(中級中国語)	1後			1				○						1		
	初修外国語(初級韓国語)	1前			1				○						1		
	初修外国語(中級韓国語)	1後			1				○						1		
	運動科学演習(運動科学演習)	1後	○	1					○						3	共同	
	情報科学(情報科学)	1前	○	2					○						1		
	情報処理演習(医療情報処理演習)	1前	○	1											1		
	統計学(基礎統計学)	1後	○	2					○				1				
	統計学(医療疫学統計学 I)	3前	○	1					○				1			1	
	統計学(医療疫学統計学 II)	3後	○	1					○				1				
	物理学(物理学)	1前	○	2					○							1	
	化学(化学)	1前	○	2					○			1					
	生物学(生命科学)	1前	○	2					○							1	
	多職種連携(多職種連携入門)	1前	○	2					○		2		1	1		27	オムニバス方式
	自然科学入門(基礎数学)	1前				1			○							1	
	自然科学入門(基礎化学)	1前				1			○			1					
	自然科学入門(基礎生物学)	1前				1			○		1						
	多職種連携(多職種連携地域包括ケア実践演習)	3前			2								1			21	オムニバス方式
	医療倫理(基礎医療倫理学)	1後	○	1					○							1	
小計(34科目)		—	—	24	20	3		—		7	1	7	1		65		
専門基礎科目	解剖学 I	1前	○	1				○							1		
	解剖学 II	1後	○	1				○							2	オムニバス方式	
	解剖学実習	2前	○	1						○		2	1		3	オムニバス方式・共同	
	生理学 I	1前	○	1				○							1	オムニバス方式	
	生理学 II	1後	○	1				○							1		
	生理学実習	2前	○	1						○		1	1			共同	
	生化学 I	1前	○	1				○							1	オムニバス方式	
	生化学 II	1後	○	1				○							1	オムニバス方式	
	生化学実習	2前	○	1						○		1				共同	
	医学概論	1前	○	1				○			5		2			4	オムニバス方式・共同(一部)
	病理学	1後	○	1				○			1						
	薬理学	2後	○	2				○								1	
	栄養学	2後	○	2				○								2	オムニバス方式
	公衆衛生学	1後	○	1				○			4		2	1		オムニバス方式	
	公衆衛生学実習	1後	○	1						○	1		1			共同	
	関係法規	4前	○	1				○			2		1			オムニバス方式	
	医療情報科学	3前	○	1				○					1				
医用工学概論	2前	○	1				○					1					
医用工学実習	2後	○	1						○			2			共同		
サイエンスライティング II	3通	○	1				○			2					オムニバス方式		
小計(20科目)				22	0	0		—		7	0	5	1		12		

専門科目	臨床病態学Ⅰ	1後	○	1			○			1				1	オムニバス方式
	臨床病態学Ⅱ	2前	○	1			○			1				1	
	臨床病態学Ⅲ	2後	○	1			○			2				2	オムニバス方式・共同(一部)
	臨床検査医学総論演習	4通	○	1				○		2				2	オムニバス形式
	臨床血液学Ⅰ	1後	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床血液学Ⅱ	2前	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床血液学実習	2後	○	2					○	2		1		1	オムニバス方式・共同
	臨床血液学演習	4通	○	1				○		1		1		1	オムニバス方式
	臨床病理検査学	2前	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床細胞診断学	2後	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床細胞病理学実習	3前	○	3					○	1		1		1	共同
	臨床細胞病理学演習	4通	○	1				○		1		1		1	オムニバス方式
	臨床化学Ⅰ	2前	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床化学Ⅱ	2後	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床化学実習	3前	○	2					○	1		1		1	共同
	臨床化学演習	4通	○	1				○		1		1		1	オムニバス方式
	臨床検査学	1前	○	1						3		3		3	オムニバス方式
	臨床検査学総論Ⅰ	1後	○	1			○			1				1	
	臨床検査学総論Ⅱ	2前	○	1			○			1				1	
	臨床検査学総論実習	2後	○	1					○	1		1		1	オムニバス方式・共同
	臨床検査学総論演習	4通	○	1				○		1				1	
	核医学概論	2後	○	1			○								1
	遺伝子検査学	2前	○	1			○			1				1	
	遺伝子検査学実習	2後	○	1					○	1		1		1	共同
	免疫検査学Ⅰ	2前	○	1			○			1				1	
	免疫検査学Ⅱ	2後	○	1			○					1		1	
	免疫検査学実習	3前	○	2					○	2		1		1	オムニバス方式・共同
	免疫検査学演習	4通	○	1				○		2				2	共同
	輸血・移植学Ⅰ	3前	○	2			○			1		1		1	オムニバス方式
	輸血・移植学Ⅱ	3後	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	輸血・移植学実習	3後	○	1					○	1		1		1	共同
	微生物学	2前	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	臨床微生物学	2後	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	微生物検査学	3前	○	1			○			1		1		1	オムニバス方式
	微生物学実習	3後	○	3					○	1		1		1	共同
	臨床微生物学演習	4通	○	1				○		1		1		1	オムニバス方式
	寄生虫検査学演習	3前	○	1				○		1		1		1	オムニバス方式・共同(一部)
	臨床生理学Ⅰ	2前	○	1			○			1				1	
	臨床生理学Ⅱ	2後	○	1			○					1		1	オムニバス方式
	臨床生理学実習	3前	○	3					○	1		1	1	2	オムニバス方式・共同
	画像検査学	3前	○	2			○					1	1	1	
	画像検査学演習	3後	○	2				○				1	1	1	共同
	臨床生理学演習	4通	○	1				○		1		1	1	1	オムニバス方式
	検査機器学	1前	○	1			○			2		4			オムニバス方式
	基礎機器分析演習	1前	○	1				○		2		3			オムニバス方式・共同
	臨床検査管理学Ⅰ	1前	○	2			○			1		3	1	1	オムニバス方式
	臨床検査管理学Ⅱ	2前	○	2			○			1		2			オムニバス方式
	臨床検査管理学Ⅲ	3前	○	2			○			1					
	保健医療福祉演習	4前	○	1				○		3		3			オムニバス方式
	総合臨床検査学演習Ⅰ	2後	○	1			○			8		5	1		オムニバス方式
	総合臨床検査学演習Ⅱ	4前	○	1			○			3		3			オムニバス方式
	総合臨床検査学演習Ⅲ	4後	○	4				○		7		6	1		オムニバス方式
	医療安全管理学	2前	○	1			○			2		3			オムニバス方式・共同
	医療安全管理学演習Ⅰ	2前	○	1				○		6		5	1		オムニバス方式・共同
	医療安全管理学演習Ⅱ	4前	○	1				○		2		1			オムニバス方式
	臨地実習	3後	○	12					○	7		6	1		共同
	卒業研究	4通	○	6					○	7		6	1		共同
	医療データサイエンス入門Ⅰ	1後			1			○							1
	医療データサイエンス入門Ⅱ	1後			1			○							1
	健康食品学 ※1 ※2	3前			1		○			1		1			オムニバス方式
	食品関係法規	3前			1		○			1		1			オムニバス方式
	食品衛生学 ※1	4前			1		○								オムニバス方式
	コミュニケーション演習	3後			1			○		3		3			オムニバス方式
	サイエンスライティングⅠ	1前				1	○			2		3	1		オムニバス方式・共同
小計(64科目)	—	—	91	6	1	—	—	—	8	0	6	1		27	
合計(118科目)	—	—	137	26	4	—	—	—	8	1	7	1		85	

学位又は称号		学士(臨床検査学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
全学教育科目30単位以上(うち必修24単位)、専門教育科目114単位以上(うち必修113単位)、 合計144単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限:46単位(年間)) ※1 食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得するために履修が必要。 ※2 健康食品管理士の受験資格を取得するために履修が必要。			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業の標準時間	80分

別記様式第2号(その3の1)

授業科目の概要

(医療技術科学研究科 臨床検査学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自然科学特論		<p>本科目は、臨床検査および臨床検査の関連研究をおこなうための基礎知識を養うことを目的としています。臨床検査技師に必要となる化学と生物の基礎的な知識から、今後、臨床検査で取り入れられることが予想される先端的な技術への応用まで、幅広く必要となる知識と理解を講義により身につけます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 鈴木喜一/8回) 量子化学と分光学、吸収分光、発光分光(蛍光とりん光)、赤外線とラマン分光、マイクロ波分光とその他の分光、生体成分の微量定量分析1~3 (7 藏満保宏/7回) 細胞内小器官とは、細胞内小器官の分離、細胞内遺伝子の抽出と分離、細胞内蛋白質の抽出と分離、細胞膜脂質の抽出と分離、微量分析と生体成分、先天性代謝異常症と代謝物との関連</p>	オムニバス方式
	臨床検査管理学特論		<p>我が国の臨床検査は、国際化の流れを受けて検査前・検査中・検査後の「精度保証」のみならず、良質な検査管理業務も含めた「品質保証」の概念が広まりISO 15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)のような国際規格に基づく認定を取得する施設が増加している。本特論では、様々な視点から適正な組織の管理・運営を実践するリーダーとしての実行能力を身につけるため、従来の精度保証に加えて、検査部門の人事・労務管理、人材育成、コスト管理、試薬・物品等の管理、機器・検査システム管理、第三者機関による外部評価の良質な検査管理業務を含めた検査室管理業務、さらに、医療機関における安全管理とリスクマネジメント、チーム医療と地域医療、災害対策についても学び、検査室管理運営の実際に関する系統的な内容について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 遠藤輝夫/7回) 管理の概念、医療における組織体制、我が国の医療保障制度、検査室の経済管理、検査室の労務管理、臨床検査の精度保証とコンサルテーション (2 吉田繁/4回) 検査室管理の実際、検査室の人事管理、検査室の施設・設備管理、臨床検査技師の教育 (10 近藤啓/4回) 管理の仕事と役割、医療と病院経営、検査室のシステム管理、検査室の危険性物質の管理</p>	オムニバス方式
共通科目	臨床検査研究法特論 I		<p>臨床検査の基礎となる生命科学では、適切な実験モデルを構築し、そのデータを解析することで様々な生命現象が明らかにされてきた。このように、研究現場のみならず臨床検査の現場において生じた疑問を科学的に解明するためには、実験計画の原則ならびに基礎生命科学実験法を熟知する必要がある。また、計画した実験の重要性及び意義を他者にわかりやすく伝えることも必要となる。そこで本講義では、まず実験計画に必要な基本原則および生命科学で汎用される基礎実験手技を学び、実際に研究計画調書を作成することで、修士課程で行う研究の意義及びその方法について理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 松尾淳司/5回) 実験計画法入門、バイオインフォマティクス入門、タンパク質機能解析法1・3・4 (13 高橋祐司/5回) 実験計画書の作成、PCによる文献検索とその管理、PCによるデータ解析入門、脂質分析法1・2 (14 山崎智祐/5回) 日本学術振興会特別研究員制度の概要、遺伝子解析法1・2、細胞培養法、タンパク質機能解析法2</p>	オムニバス方式
	臨床検査研究法特論 II		<p>本特論では、臨床検査研究法特論Iで学習する知識と共に、研究を遂行する上で必要となる、実験動物を用いた臨床検査研究法、および研究結果に対する応用的な統計学的解析法を学習する。また、研究倫理に関する知識を深め、臨床検査研究などのヒトを対象とした研究を行う上で発生する倫理的問題について学び、倫理的に配慮された研究展開法と研究コンプライアンスを学習する。さらに、ヒトの血液・尿・組織や生体を用いた臨床研究の立案から実施までの各種手続きの流れ、および論文作成の手順やプレゼンテーション方法についても習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 田中真樹/6回) 動物実験の目的、実験動物の実験操作1・2、遺伝子改変マウス、修士論文の作成・報告 (9 丸川活司/4回) 研究の倫理指針1・2、臨床研究 1・2 (12 高橋祐輔/5回) 研究データの解析1・2、研究倫理の概念、利益相反、研究の倫理指針3</p>	オムニバス方式
	保健医療データサイエンス特論		<p>来るべきSociety 5.0の到来に向けて、臨床検査分野でも、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、ビッグデータなどの膨大なデータ(情報)を適切に分析して、科学的思考に基づいた確かな判断する力が求められている。保健医療データサイエンス特論では、臨床検査分野との繋がりに焦点をあてながら、DXを支える数理・データサイエンス・AIの技術を修得して、それを適切に活用できるようになることを目指す。また、授業では、教育用ロボットを使ってプログラムを可視化するなどしながら、実践的に数理・データサイエンス・AIの技術を修得する。授業の序盤では、DXの鍵となるビッグデータ(膨大な量のデータ)を扱うスキルを修得するとともに、臨床検査分野におけるAI・機械学習・深層学習の応用について学ぶ。授業の中盤以降では、AI実践演習課題に挑む。ここでは、臨床検査分野における活動とAI技術における4つの要素のうち、1つ、もしくは、複数を組み合わせて、教育用ロボットなども利用しながらAIシステム(ビッグデータ活用システム)を開発する。AI実践演習課題を通して、AIの開発や運用を体験しながら、臨床検査分野におけるAIの実装について学ぶ。</p>	

応用 特色 科目	保健医療管理学特論	<p>多職種連携が基本となっている現在の医療の現場では、臨床検査の専門知識や臨床検査技師としての能力を必要とされる場面がさまざまに存在する。感染症、栄養管理、認知症、糖尿病、心不全などに携わるチーム医療の場で中心的な役割を果たすために、国内外における現代の保健・医療の現状と課題について理解するとともに、臨床検査に関連する最新の研究動向・実施例を学ぶ。その上で自らが保健・医療にどのように貢献できるかを考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 幸村近/9回)序論、国際的な医療の動向、保健・医療制度と医療倫理、まとめ (10 近藤啓/8回)在宅医療と臨床検査、臨床検査の新たな展開、まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	医療病態学特論	<p>本科目は、臨床検査および臨床検査の関連研究を行うために、病態を学んでよく理解することを目的としています。そのために、病態における生理(病態生理学)と病態における分子の動態(病態生化学)を基礎から学び、さらにそのための研究・実験の行い方を学び、病態解析に役立てることができることを最終目標としています。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 藏満保宏/8回)代謝疾患病態の分子動態講義/研究の紹介と討議、炎症・感染症病態の分子動態講義/研究の紹介と討議、癌病態の分子動態講義/研究の紹介と討議、免疫の分子動態講義/研究の紹介と討議 (1 幸村近/7回)腎・水電解質代謝疾患の病態生理学の講義/研究の紹介と討議、呼吸器疾患の病態生理学の講義/研究の紹介と討議、神経・筋疾患の病態生理学の講義/研究の紹介と討議、循環器疾患の病態生理学の講義/研究の紹介と討議</p>	オムニバス方式
	医療予防医学特論	<p>予防医学とは、個人だけでなく地域や集団を対象にし、人々の健康を増進する予防的介入に特化した分野で、疾病に罹患することを防ぎ、さらに人の健康の保持・増進を希求する学問である。医療予防医学特論では、生活習慣病や感染症の予防など、様々なテーマから予防医学の知識と臨床検査を担うために必要とされる技術と知識を総合的に学び、予防医学がこれまで果たした成果とこれからの適用分野について、疾病の知識とともに具体的事例から学ぶ。また、人間集団に対する健康管理的アプローチの方法として、疫学的な考え方や保健医療福祉活動の目的・課題についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 丸川活司/8回)予防医学総論、予防医学の歴史、成人保健(悪性新生物)、感染症予防②、がん検診①・②、ゲノムと予防医学①・② (3 田中真樹/7回)予防医学と行政の取組み、生活習慣と予防医学①・②、食品栄養からの予防医学、口腔ケアからみた予防医学、成人保健(循環器疾患)、感染症予防①</p>	オムニバス方式
	先端医科学特論	<p>疾患の診断法、治療法は、技術の進歩に伴い日々進化しており、新たな知見に基づいて、診断基準、標準治療法やガイドラインの改訂が日々行われています。新たな検査方法や病態解明に基づいて分類や治療法が大きく変化した疾患も知られています。また、遺伝子異常の検索によってより特異的な治療も可能となってきています。先端医科学特論では、各領域の代表的な疾患について、現在の医療を理解するとともに今後展開が期待される診断法や治療法について理解することを目標とします。</p>	共同
	医療英語特論	<p>英語は、科学分野における研究の共通言語であり、また、研究で得られた成果は、英語で書かれた科学論文により世界中に発信される。このため、基礎医学から臨床検査、診療に関する最新の情報は英語論文から得る必要が生じている。そこで医療英語特論では、英語論文から国内外における最新の知見を得るために必要となる科学論文について包括的に学習する。具体的には科学論文の種類や構造、基本的な読み方の習得に加え、実際の英語論文抄読を通して必要な情報を収集する術を身に付けることを目標とする。また、英語論文から得た情報を第三者へ正しく伝える方法を取得することを最終目標とする。</p>	共同
	生体機能解析学特論	<p>臨床生理学および生理機能検査学の内容を発展させ、さらに深く理解することで、臨床での応用力を向上させる。生体の機能を把握し理解するためのさまざまな生理検査の原理と実際の方法を学ぶ。さまざまな疾患において生体機能の解析・評価を非侵襲的かつ有効に実施するための生体機能検査法の開発や改良についての研究を遂行できる素地を身に付ける。また生理検査を通してチーム医療に貢献できるような高度の専門性を修得する。</p>	
	生体機能解析学演習	<p>生体機能検査学特論などで修得した生理検査についての基本的な知識を応用・発展させて、当該領域の研究に必要な実践的な方法論や解析法を修得することを目的とする。生体機能検査一般、循環器系検査、呼吸器系検査、神経系検査、超音波検査などについて、関連する領域の文献調査を行う。それらの研究手法を参考にしてデータを取得解析し、妥当性を検証する。さまざまな研究で行われている研究方法や研究における論理的思考法について学ぶ。</p>	
	病態情報解析学特論	<p>患者の病態を解析するためには、種々の臨床検査法を用いて多くの情報を収集する必要がある。その際に、測定に関わる基礎的原理や技術的背景を理解しておくことで、より精度と正確性の高い臨床検査を提供することが可能となる。また、検査技術の進歩には、測定法の自動化も寄与しており、その技術革新を理解し、応用するための知識も必要となっていることから、自動分析装置の信頼性を検証する方法も理解する必要がある。本講義では、病態解析に必要な測定法と自動化法について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 遠藤輝夫/12回)臨床化学検査試薬の開発と歴史、検査試薬の検討法の基礎、輸血検査の基礎・抗原-抗体相互作用学の動態学、赤血球抗原抗体反応の凝集に影響を与える因子1・2、凝集反応を増強させる試薬、抗原抗体反応検出法、抗原抗体反応を検出するその他の方法と輸血検査の自動化2 (13 高橋祐司/3回)測定試薬に共通される成分、抗原抗体反応を検出するその他の方法と輸血検査の自動化1</p>	オムニバス方式

専 門 科 目	病態情報解析学演習	病態解析に用いる分析手法では、しばしば用いる測定法と測定サンプルの組み合わせにより予期せぬ測定結果を得る場合がある。この非特異的現象の原因は、病態解析情報学特論での基礎的な知識を持って対応することも必要であるが、併せて文献等による症例報告を検索する必要がある。これらの情報は、多くの技術者・研究者により日々報告されているが、その中から必要な情報を取捨選択しなければならない。本講義では、臨床検査に用いる汎用自動分析装置と輸血領域の検査を中心とした異常反応の症例を文献検索し、学修することを目的とする。また、病態解析の分野でも今後応用が期待される人工知能(AI)に関する情報についても学ぶ。	共同
	血液病態解析学特論	血液の機能は多彩で、ガス交換、栄養素やホルモンの運搬、止血作用および免疫作用などがある。血液は全身を循環し、全器官の機能と健全な生命活動の維持など、重要な役割を果たしている。造血管腫瘍、貧血や血栓・止血疾患などの血液疾患は生体に多くの症状を引き起こす。各疾患の病態を詳細に把握することで、その疾患の発症機序、最先端の検査法や治療法を学習する。さらに、分子・遺伝子レベルで各疾患の病態について理解を深めることで、新たな検査項目の発見や新規検査法の開発に関する可能性を追求し、学習する。 (オムニバス方式／全15回) (3 田中真樹／10回)血液の基礎知識、血球の産生・崩壊、鉄の代謝、貧血1~4、出血性疾患1~3 (12 高橋祐輔／5回)造血管腫瘍1~5	オムニバス方式
	血液病態解析学演習	血液病態解析学特論で学んだ内容に基づいて、造血管腫瘍、貧血や血栓・止血疾患などの病態解析学的に関連する国内外の状況を検索し、発症の機序、検査法や治療法に関する知識を深める。さらに、研究遂行に必要な応用的知識を習得することを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (3 田中真樹／10回)血液学の構造と機能、造血のしくみ、鉄の代謝、ビタミンB12、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、血小板異常、凝固因子異常、播種性血管内凝固症候群 (12 高橋祐輔／5回)悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫と類似疾患	オムニバス方式
	免疫細胞生物学特論	免疫システムは、大きく自然免疫と獲得免疫の2つに分けられ、外界からの異物に対する防御反応を担っています。多くの免疫担当細胞が複雑なシステムに関わりますが、時に結びを生じてヒト疾患に繋がります。免疫システムの異常は、病態形成のみならず、疾患特異的な治療の開発にもつながっており、病態から治療を考えることができるようになってきています。免疫細胞生物学特論では、ヒト病態に繋がる免疫システム異常と代表的な疾患の病態について学びます。	
	免疫細胞生物学演習	免疫細胞生物学特論で学んだ各内容について、実際に英文論文を読解することにより、免疫担当細胞が病態形成に関わっている疾患の現在の考え方を理解します。幅広い分野を理解する足がかりとする目的に基礎的な内容からヒト疾患の治療までさまざまな英文論文を抄読します。また、成書の記載と比較することで疾患の捉え方の変遷や、検査法の変化、治療法の進歩などについて学びます。加えて、さまざまな研究から導かれた病態を学ぶとともに、導かれた結果を証明するに至った研究方法、研究の論理的思考法についても学びます。	
	感染生物学特論	感染症を引き起こす病原体は多岐にわたる生物により構成されるので、感染症を根本から理解するためには、感染症を引き起こす病原体の特徴やその性質を十分に理解したうえで、個々の感染現象を理解する必要があります。そこで本講義では、学部で学んだ感染症を引き起こす生物の特徴について復習し、これら病原体がどのようにして各種疾患を引き起こすか、そのメカニズムを学ぶ。さらに、感染現象を解き明かすために必要な実験手技やその解釈についても学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (6 松尾淳司／9回)感染症を引き起こす生物、感染現象のメカニズム1・3、感染現象の解析法1・3 (14 山崎智弘／6回)感染現象のメカニズム2・4、感染現象の解析法2	オムニバス方式
	感染生物学演習	感染症を引き起こす病原体は多岐にわたる生物により構成されるので、感染症を根本から理解するためには、感染症を引き起こす病原体の特徴やその性質を十分に理解したうえで、個々の感染現象を理解する必要があります。そこで本演習では、感染生物学特論で学んだ感染現象のメカニズム理解したうえで、解析法を実際に試みることで、感染現象を解き明かすために必要な実験手技を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (6 松尾淳司／9回)感染現象の解析法、感染現象の遺伝子解析法1、感染現象のタンパク質機能解析法1・3 (14 山崎智弘／6回)感染現象の遺伝子解析法2、感染現象のタンパク質機能解析法2	オムニバス方式
	遺伝子関連検査学特論	分子生物学的技術の発展により臨床検査の分野で遺伝子関連検査が急速に普及している。遺伝子関連検査には微生物やウイルス等の病原体を対象とした病原体遺伝子検査、腫瘍細胞等の後天的変異を対象とした体細胞遺伝子検査、遺伝性疾患や家族性腫瘍等の生来的な遺伝情報を対象とした生殖細胞系列遺伝子検査に大きく分かれるが、いずれの検査においても細胞遺伝学、分子生物学、遺伝子工学の知識が必要となり、また、遺伝子関連検査の技術、精度管理、結果の評価や解釈が重要となる。本講義では、臨床検査の現場で遺伝子関連検査を実践するうえで、臨床検査技師に必要とされる細胞、遺伝子、染色体の基礎的知識ならびに様々な遺伝子関連検査法の原理や疾患への応用を講義により学ぶ。	

遺伝子関連検査学演習		分子生物学的技術の発展により遺伝子関連検査が臨床検査の分野にも急速に普及している。遺伝子関連検査の対象は病原体、体細胞、生殖細胞のみならず体液中の核酸など多岐にわたり、目的に応じて様々な解析方法が存在する。解析方法には核酸増幅や検出などによる目的遺伝子の定性もしくは定量的な検出手法、目的遺伝子や全ゲノムの塩基配列の決定や深度解析など得られる情報は様々である。したがって、遺伝子関連検査結果を医療に応用するためには、目的とする遺伝情報の検索、遺伝子解析技術の理解と妥当性の評価、結果の解析方法の知識と理解が必要である。本演習では、遺伝子関連検査を実践するために臨床検査技師に必要なバイオデータベースやウェブツールによる検索や塩基配列解析、核酸増幅検査や塩基配列解析法の作成と評価、精度管理物質の作成などの知識と技術を講義と実習により学ぶ。	
分子細胞病理学特論		分子生物学の飛躍的な進歩により、多くの疾患が分子レベルで理解されるようになった。特にがん治療の分野では、ゲノム情報を用いて、個人ごとの最適な診断・治療をするというプレジジョンメディシン(がんゲノム医療)への取り組みが、急速に進められ、分子生物学的解析手法は、病理細胞診分野において感染症診断や分子標的薬剤の感受性検査や病理細胞診断の鑑別補助診断に応用されている。そこで本講義では、学部で学んだ分子細胞病理学的解析法について復習し、各種解析方法に対する利点・欠点とその結果の解釈方法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (9 丸川活司/10回)病理診断における遺伝子検査、個別化医療とは、組織切片を用いた遺伝子解析法(肺がん/消化器がん/脳腫瘍/造血管系疾患) (10 近藤啓/5回)組織切片を用いた遺伝子解析法(感染症/乳がん/婦人科腫瘍)	オムニバス方式
分子細胞病理学演習		近年の病理診断技術の進歩は目覚しく、形態学のみならず遺伝子を用いた分子病理学的手法が取り入れられるようになった。特にがん治療の分野では、ゲノム情報を用いて、個人ごとの最適な診断・治療をするというプレジジョンメディシン(がんゲノム医療)への取り組みが、急速に進められている。そこで本演習では、分子細胞学特論で学んだ知識を生かして、各種解析方法を実際に試み、分子細胞病理学的解析法に必要な手技を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (9 丸川活司/10回)分子細胞病理診断方法、ホルマリン固定パラフィン包埋(FPPE)標本からのDNA・RNA抽出法、組織切片を用いた遺伝子解析法I・II (10 近藤啓/5回)コンパニオン診断法I・II	オムニバス方式
研究指導 生体情報解析学研究		本科目は、自立的な研究者としての基礎的能力(研究計画立案能力、実験の遂行能力、実験結果の解析と考察力、プレゼンテーション能力)を養い、また、研究をとおして多様な人々との円滑なコミュニケーション、多面的な視点による課題の発見と解決する能力を養うことを目的とする。「臨床検査研究法特論I,II」にて身に付けた研究遂行能力を基盤として、学生が希望する専門性と関連の深い研究テーマについて研究指導教員の専門研究領域から選定し、論文調査、研究倫理、研究の実施、結果の解釈と考察、論文作成等を実施し、学会等での研究発表等も踏まえて、修士課程の修了に相応しい研究として完成させる。 (1 幸村近)生理学的手法を用いて生体内の情報収集・解析を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (11 江本美徳)生理学的手法を用いて生体内の情報収集・解析を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。 (4 遠藤輝夫)分析化学の手法を用いた新規バイオマーカー検索および細胞内代謝を明らかにする。輸血・移植領域の検査法の検討及び改良を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (13 高橋祐司)分析化学の手法を用いた新規バイオマーカー検索および細胞内代謝を明らかにする。輸血・移植領域の検査法の検討及び改良を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。 (3 田中真樹)免疫・血液学的手法を用いた血中細胞の機能解析を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (5 坊垣暁之)免疫・血液学的手法を用いた血中細胞の機能解析を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (12 高橋祐輔)免疫・血液学的手法を用いた血中細胞の機能解析を行う。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。 (6 松尾淳司)微生物学的手法を用いた感染メカニズムを解析する。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (14 山崎智弘)微生物学的手法を用いた感染メカニズムを解析する。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。 (2 吉田繁)病理学的手法やゲノム解析技術を用い、細胞内外の病変診断法を確立、評価する。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導する。 (9 丸川活司)病理学的手法やゲノム解析技術を用い、細胞内外の病変診断法を確立、評価する。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。 (10 近藤 啓)病理学的手法やゲノム解析技術を用い、細胞内外の病変診断法を確立、評価する。課題調査・研究計画立案、研究、研究論文作成・発表を指導補助する。	